

こころ医療福祉専門学校佐世保校  
令和元年度第1回教育課程編成委員会議事録

【日時】令和元年8月25日（日）10：00～10：45

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 2階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）

井手浩二（いで整骨院）

上田陽介（純心整骨院）

廣瀬典治、永田俊晴、鴨田亮平

（敬称略）

1 開会の辞（司会 永田俊晴）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 永田俊晴）

各委員の紹介を行う。

3 学校長挨拶（校長 廣瀬典治）

令和元年度第1回教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を始めさせていただきます。現在、柔道整復科56名が国家試験合格に向けて日々励んでおります。日頃からの御支援ありがとうございます。また、平成27年に開校した日本語科につきましては現在7期生を迎えた。毎年4月と10月に入学している。現在53名、今年10月には30名弱の入学を予定している。本日の2つの委員会についての説明になるが、職業実践専門課程についてだが、文部科学省の認定となっているが、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として実務に関する知識、技術、技能について組織的な教育を実践している課程、学科を文部科学大臣が認定して証明することにより専門学校における職業教育の水準の維持、向上を図ることを目的としている。職業実践専門課程にかかる会議として今回の2つの委員会となっている。

要約すると、専門学校が関連する施設企業等と組織的に連携して、時代に即した質の高い専門教育を行うことを目的とすることである。

学校関係者評価委員会については、学校教育法において、学校自己評価と学校関係者評価委員会の実施が義務付けられており、関係施設等の管理職または役員の方々が、学校関係者として学校自己評価結果の評価とともにアドバイスをいただき、学校運営の改善につなげていくための委員会となっている。みなさまの忌憚のない意見をお願いしたいと思う。

#### 4 柔道整復科（学科長 永田俊晴）

##### （1）教育計画

平成 30 年度報告をさせていただき、第 27 回国家試験合格者について、全国合格率 65.8%、うち新卒 86.1%、既卒 26.3%となっている。佐世保校は 17 名受験 15 名合格 88.2%、長崎校は 39 名 33 名合格で 84.6%となっている。

就職状況について、卒業生 20 名中 19 名が就職している。1 名に関しては持病を持っており、療養中である。入学者については、平成 31 年度の新一年生は定員 30 名中 21 名となっている。男性 13 名、女性 8 名。うち新卒は 10 名社会人 11 名。長崎県出身 17 名、佐賀県 4 名。臨床実習について、本年度から外部実習として整骨院に学生を実習に行かせている。令和 1 年 8 月 19 日より 30 時間の外部実習を行った。令和 2 年 2 月 24 日から 30 時間の外部実習を行う予定。

今後の予定、昨年も実施した臨床実習指導者講習会を長崎校と合同で 11 月に行う予定である。受講された先生のもとに学生を実習に行かせる。人数等の詳細は決まっていないが、随時外部実習先を増やしていく予定である。

##### （2）質疑応答

田中) 国家試験の不合格者等の留年生に対する学校側の対応はどのようにしているか。

永田) 今年は 2 名留年している。留年生へは単位は取れているが、授業に出席して勉強をする機会を作るように指導をしている。理由としては勉強ができなくて国家試験に不合格しているため、学校に来ない状況で勉強することは難しい。例年学校に来ずに国家試験に合格した者はほとんどいない。もともと勉強したがいらないで学校へ来たくないという面もある。結果 1 名は学校へ来ていない。1 名は単位を落としている科目のみ出席している。1 年間のアドバンテージがあるため、クラスの平均より上にいるため、そこで過信して学校へ来ない。そうなってしまうと国家試験に合格することが難しくなる。

学校側から授業へ出席して、補講にも出席するよう指導しているが、意固地になってしまっている。勉強する習慣がないため、成績も上がらない。定期的な声掛けや個人面談を実施しようとは考えているが、何かしらの理由を付けて実施できていない。成績に関しては模擬試験実施後に添削ノートを提出させて評価をしているが、なかなか点数に結びつきにくい状況である。

井手) 留年生は 3 年生と一緒に勉強させるのか。

永田) やっている。

井手) 認定実技は留年生も受けるのか。

永田) 昨年の認定実技に合格している学生は免除をしてもらえるよう申請を行っている。申請が通るかは 9 月に分かる予定である。

井手) 今回の大きな問題は来年度の必修問題の対策はどうしているか。

永田) 出題基準を見ると、柔道と関係法規、柔整理論である。柔整理論は認定実技の項目だけに絞られる。それと基本包帯法となる。基本包帯法に関しては、難易度が高いわけではない。そのため4月の段階から認定実技の項目に的を絞ってオリジナル問題や過去問を解かせて補講をしている。

田中) 国家試験の時間は変わるのか。

永田) 時間変更の明記はないため、現在はわからない。

田中) 臨床実習を終えて学生の感想はどうか。

永田) 8月23日(金)に終了したため、まだ登校してきていない。再試験と単位認定を控えている。9月2日(月)に学生へ直接話を聞く予定である。学生側の意見と整骨院側の意見を加味して、2月からの実習に反映させていく。

田中) 昨年度の学生募集に係る取り組みと反省点を教えてほしい。

永田) 昨年度の学生募集については資料8ページに記入してある。取り組みとしては電話アプローチ、高校部活動へのトレーナー活動、ダイレクトメール等を行った。反省点として若い子は電話に出がらないため、募集に繋がっていない。そのため、今年は電話アプローチを行っていない。佐世保東翔高校バドミントン部へのトレーナーについても結果として柔整への道へ導けていないため実施していない。継続している高校訪問、整骨院訪問については結果に結びついている。トレーナー活動は外傷がしっかりみることができるよう、今年から行っている商工会サッカーは良い反応があった。

田中) 入学生に社会人が多くいるが、どうしてか。

永田) 社会人に関してはオープンキャンパスへの参加がない場合が多い。ほとんどが学校へ来校せず、入試前に入学願書の提出がある。今年度は専門実践教育訓練給付金があったということも要因である。しかし、今年度で給付金の認定期間が過ぎるため、次年度の募集に影響がある可能性がある。

田中) 来年はないのか。

永田) ない。そのため、次年度の募集で社会人へどのようにアピールするのかを考えないといけない。

井手) 授業コマ数が増えたが、今年度の入学生は知っているのか。

永田) オープンキャンパス参加者へは伝えていない。入学してくる学生は授業コマ数が増えても減っても比較するものがないためである。臨床実習があるということについては伝えてある。

井手) 授業コマ数増加は先生たちにとっても大変ではないか。

永田) 新しいことを進めることになるため、準備や非常勤講師との打ち合わせをしっかりと行っている。

田中) 午前中にアルバイトをしている学生が多いのか。

永田) 現在1年生に関してはアルバイトをしている学生は多くない。理由として前期試験の成績を見て動く学生が多いためである。2、3年生に関しては午前中にもいれば午後からアルバイトをする学生もおり、さまざまである。

上田) 模擬試験などの回数は増えているのか。

永田) 以前は月 1 回であった、佐世保校は業者を 2 つお願いしている。基本的に 12 月まで月 1 回、1 月からは月 2 回となっている。問題数が 250 問あるため、いろんな業者や模試のマークシートに慣れてもらう。それでもチェックミスをする学生が多くいる。

井手) 今年の 3 年生で留年確定はいるのか。

永田) 明日からの再試験次第である、留年の可能性が高い学生は数名居る。

田中) 成績が悪い学生のモチベーションは低いのか。

永田) 高くない。学生本人が国家試験に間に合うと思っているため、個人データを分析して現状では間に合わなくなる可能性があるかと伝えている。

田中) 有効求人倍率が高い状況はまだ続くのか。

永田) 学校へ届く求人票は増えてきている。

井手) 卒業生の離職率は把握しているか。

永田) 数字では把握していないが、資格を取って離職した学生はほとんどない。

田中) 開業率はどうか。

永田) 4 期生まで輩出しているが、知っている範囲で 5 名ほどである。ほとんどは勤務している。

田中) 勤務しないと開業できなくなったのも原因か。

永田) 最近の学生の思考として、安定を求める学生が多くなっているため、グループ展開している店舗へ就職することが多い。

3 全体の質疑応答  
特になし。

6 閉会の辞(司会 永田俊晴)  
以上で本委員会を終了する。